

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 20 日

札幌市立 栄西小学校

1 今年度の重点目標

「つながりを広げ 自分を耕す 瞳輝く栄西」

2 本年度の経営方針

- ①「学ぶ力」の育成<学ぶ力育成プログラムの作成・運用・評価>
- ②「豊かな心」を育む指導の充実<豊かな心育成プログラムの作成・運用・評価>
- ③「健やかな体」を育む指導の充実<健やかな体育成プログラムの作成・運用・評価>
- ④信頼される学校創造の推進と学年・学級経営
- ⑤児童に対する組織的な支援体制の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
包括的 重点 ■■■ Iーさ C小っ T中ば ーを ら活 つっ し子 た教 育び ーの 推 進ス （メ 情校 の報 種活 教間 育連 携）	学ば力	【授業】 学校は、「学び方」「学び合う心」を育て、「家庭学習や宿題等の指導」「学習マナー」をしっかりと身に付けさせることで、児童の学習意欲や学習習慣を高めている。	A	○「分かる、できる、楽しさを実感しながら、つながりや、『もっと~したい』のある授業」を実現できる授業改善。 ○宿題と自主学習の見直しと改訂、家庭への啓発等の取組の充実。 ○黒板やノート指導、授業スタイルや基本姿勢等の交流、共有の日常化。	A	A
		【基礎・基本】 学校は、「分かる・できる・楽しい」授業を通じた指導を行い、児童の基礎的・基本的な知識や技能や活用する力を高めている。	A	○基礎学力定着等に向けた学習指導研修、教師の研鑽と交流の日常化。 ○「6年間の育ちを見通した主体的に学ぶ姿」の共通理解と実践。 ○T.T、少人数指導など、多様な形態による細やかな指導の計画的な継続と質的改善の継続。	A	A
		【挨拶】 学校は、人との関わりを大切にすることを旨とし、家族や友達、地域の方々々と自然に明るく挨拶できるように指導を行っている。	A	○「栄西えがおプロジェクト」「生活目標」等をもとに、年間を通じた日常、継続的な指導と評価、改善。 ○可視化や数値化など、子どもが実感を持って理解できるような取組の実施。 ○率先して指導する教職員自体の指導と姿勢の共通化、共有化。	A	A
		【規範意識】 学校は、社会生活を送る上での規範意識や生活習慣を育むことを目指し、児童がルールを守り、適切に行動できるように指導を行っている。	A	○2期4節での生活目標の見直し等、何らいや目的に基づく指導の継続。 ○「人間尊重の教育」を踏まえた道徳教育の充実。 ○従来の適応指導と並行させた、自治的、自律的な活動の機会創出による能動的な規範意識の醸成。	A	A
	豊かな心	【スポーツや運動】 学校は、体育科の授業で十分な運動量を確保するとともに、中体みには体を使って遊ぶことを奨励し、児童の体力や運動能力の向上を目指した指導を行っている。	A	○鉄棒・マット・跳び箱週間等、運動の機会の保障、創出と再構成。 ○スポーツテストの全校的な取組による児童の実態把握と環境設定の工夫。 ○委員会活動と連携した、自治的な運動・健康の取組の推進と充実。	A	A
		【保健・食指導】 学校は、望ましい生活習慣が身に付くよう保健や家庭科、食や性に関する指導、学級指導等を行い、児童の健康や食に関する興味や関心を高めている。	A	○栄養教諭や養護教諭の専門性を生かしながら、児童の実態に応じた食指導、発達段階に合った指導や健康指導等のさらなる充実。 ○望ましい食習慣や生活習慣等を、多様な手法で地域・保護者に発信。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見		・挨拶は生きていく中で大切な態度になる。校内だけでなく、放課後や登下校時の小中学生との挨拶はとても気持ちの良いものです。中学生も、しっかり挨拶してくれています。地域での関わりが続けられるのは、様々な指導や声掛けが子どもたちの心に届いているのだと思います。「食」に関しては、家庭の考え方もありますが、望ましい生活習慣のためにも発信し続けていきたいです。「分かる・できる・楽しさを実感する」のは大事ですが、「楽しい」授業を追求し過ぎてはいないでしょうか。中学校では、昨年楽しくなければ取り組もうとしない生徒が増えている気がします。家庭の意識の差は、相変わらず大きく、「学び」に対して先生方の様々な取組に感謝しています。「すてきノート」や「自主学習」への声掛けは、とても良いと思います。「ちよぽろ隊」の活動等に成果が表れていると感じます。			
	札幌らしい 特色ある学校 教育	【書・環境・読書】 学校は、札幌らしい特色ある学校教育「書」「環境」「読書」の3つのテーマを教育課程に位置付け、様々な環境や体験的活動を通して学びの充実に努めている。	A	○全校での朝読書の励行と図書室を利用しやすくする環境整備の継続。 ○開放図書館や児童委員会と連携した、読書に親しむ機会の計画と運営。 ○発達段階、各教科や生活に関連付けさせた、学び機会の創出。	A	A
		子どもの 指導と支援	【生徒指導】 学校は、一人一人の子どもに寄り添い理解し、トラブルや悩み適切に対応、指導を行っている。	A	○定期的な情報共有会議の実施（各学年・各部との連携）。 ○児童の気持ちに寄り添う対応、各教科の学習と関連付けた適応指導。 ○「児童生徒指導主任」を中心に、多様な児童に対する効果的指導の確立。	A
	【いじめ防止】 学校は、日常の支援や心の観察アプリ等を通して、一人一人の子どもの悩みやいじめの現状を把握、理解し、未然防止や再発防止等の対応、指導を行っている。		A	○「児童生徒指導主任」を中心に、多様な事象に対する効果的支援の確立。 ○「起きてから」ではなく、「起きる前」に対応できる組織と連携づくり。 ○定期的な情報共有会議の実施（全校児童・各部との連携含む）。	A	A
【特別支援・不登校】 学校は、一人一人の子どもの困り感に応じ、保護者との面談や支援、スクールカウンセラーや関係機関との連携などの取組を適切に行っている。	A		○「児童生徒指導主任」を中心とした、チーム支援体制の機能化。 ○特別支援教育に関する教職員の専門性向上のための研修実施。 ○継続的な担任・保護者支援、関係機関との連携、協働の強化、継続。	A	A	
信頼される 学校の創造	【情報発信・説明責任】 学校は、学校中、学校外、懇談会、学年会等、教育活動について、地域や保護者に、適切に発信・説明を行っている。	A	○Webをベースとした情報発信における確実な情報受信の確立と継続の実践。 ○計画的に取り組み、全職員が情報発信に関わる組織づくりと運営。 ○ホームページ、Web説明会等、多様な手法による効果的な情報提供。	A	A	
	【安全指導】 学校は、児童の安全のために、避難訓練、メール配信等を行うとともに、家庭や地域と連携し、登校時の地域の見守り活動等を適切に行っている。	A	○より実践的で、実効性のある訓練内容の工夫の実践と継続。 ○「すくーる」による、効果的な安心安全メールの情報配信の充実。 ○学びに適切で、安心安全な教育環境の創造と継続。	A	A	
教科等の枠組 を越えた教育	【コミュニティ・キャリア】 学校は、生活科や総合的な学習の時間、学校行事等で、地域の環境や人材を有効に活用した学習や活動を行っている。	A	○令和8年度本格実施に向けた、中一貫でのコミュニティ・スクールと地域と学校との協働活動の一体的推進 ○地域と複数年度で断続的につながるための人材リストの効果的な活用と継続	A	A	
	【国際理解】 学校は、ALTやICTの活用、教科や道徳の学習を通して、他国の人や文化に親しみ、関心をもつ指導に努めている。	A	○各教科の学習、ALTやICTの有効活用による、多様な機会を通じた継続的創出。 ○毎年、短期間在籍する外国籍児童との効果的な交流の実践と評価	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		・「キャリアパスポート」は、小学校・中学校の期間にとって大切な取組だと考えるが、子どもたち、保護者たちにどこまで理解されているのか。自分自身の振り返りとして、また9年間の学びが生かされるというよさをアピールできるとよいと思います。「児童生徒指導主任」は、ますます重要なものになっていくと思いますが、「CDRの教室」に関して保護者が全く認知していないという声も聞かれます。「中学校との相談室」には、ならないのでしょうか。どんなふうにご利用されているのか、こんなメリットがあるということ伝えていけるとよいと思いました。児童の委員会活動との連携は、素晴らしいと考えています。地域特性を生かした教育は、評価に値します。「生徒指導」の改善策の中に「特別支援・不登校」と同様、保護者支援の視点も必要ではないかと思えます。				
学校独自 設定する分野	【研究・研修】 職能の向上を図る研究と研修、校内研修を計画的に実施している。	A	○中一貫、礼教研を踏まえた校外研究・研修活動の計画・実践。 ○生徒指導の在り方や手法等、教職員が共通認識に立ち、実効性のある日常的交流、研修。 ○命を守り、心を豊かにする安全・学級指導の日常的交流と共有、研修。	A	A	
	【働き方改革】 本来の目的をなすための「学校の働き方改革」を推進し、法令の順守と校務のスリム化を着実に進めている。	A	○必要性や目的、目標を意識した、本校らしい教育課程の改訂。 ○児童、保護者、教職員、3者にメリットのある改革の検討と実行。 ○教職員自身の意識と働き方、職場の環境、双方での改革の継続。	A	A	
	【組織・運営】 教職員の校務組織、運営、業務内容、人員配置、会議、集会等の設定は適切で、効率的に業務を推進している。	A	○校務組織の再構成、様々な形態の諸会議におけるさらなる効率化。 ○会議ペーパーレス、討議内容の焦点化、配付物の精選等の更なる推進。 ○専科指導・学年内での教科担任制などの組織的・積極的な取組。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		・ネットモラルについて、子どものSNS・スマホは保護者の責任ではありますが、学校としての何らかの指標があるとよいかなど考えます。ネット否定ではなく、その中で生活していく子どもたちに対して、生の体験を増やす、人と人のつながりが自然に感じられるような学校生活を今後も継続し、実践していただくとありがたいです。保護者との共通理解を深め、様々な事例が深刻になる前、事前の予防も含めてご苦労をおかけしますが、来年度もどうぞよろしくお願ひします。同一建物にある「まちゼン」「児童会館」「地区会館」との連携は良好であり、今後も継続していくことを願っています。今年度も情報共有させていただきありがとうございます。				